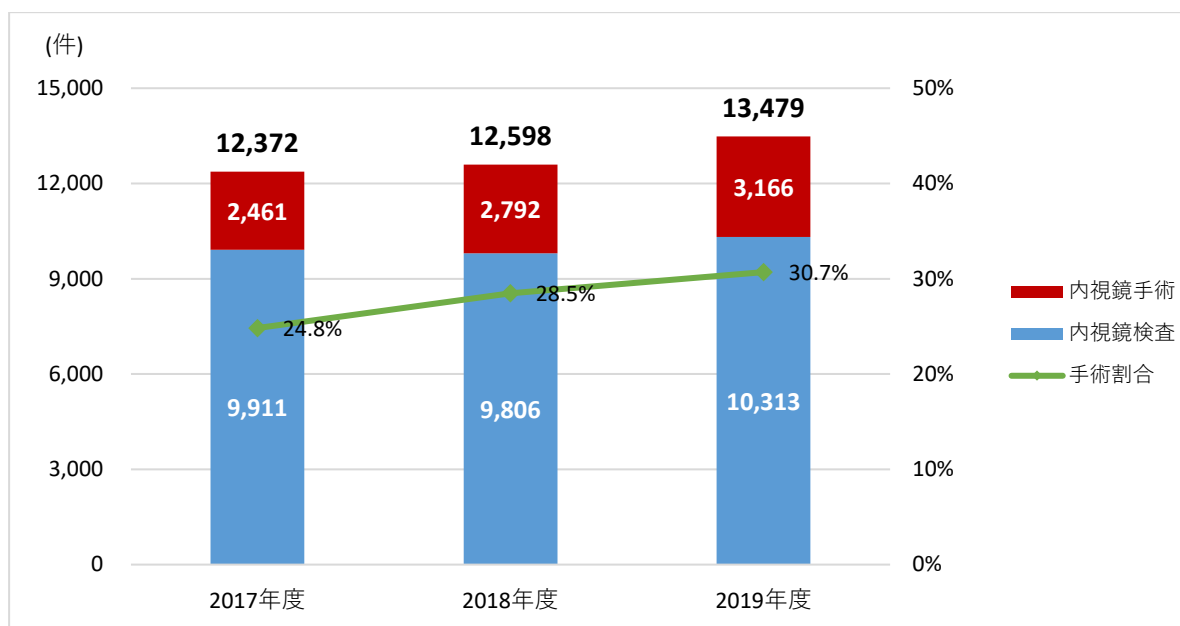


50. 内視鏡件数に占める治療（手術率）



内視鏡診療が関係する疾患は多岐にわたる。対象とする臓器は大きく消化管疾患（食道・胃・大腸など）と肝胆膵疾患（肝臓・胆管・胆嚢・膵臓）に分けられ、内視鏡センターではそれら全ての疾患の診断と治療を行っている。消化管領域では、上部消化管内視鏡、大腸内視鏡、小腸カプセル内視鏡、大腸カプセル内視鏡、ダブルバルーン小腸内視鏡などを行っており、肝胆膵領域における主な内視鏡検査は、内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)と超音波内視鏡検査(EUS)である。当センターにおける全ての内視鏡は最新・最高性能のものであり、これらを用いた先進的な診断と治療（免疫細胞療法・ウイルス注入療法など）を行っている。“がんの統計‘19”によると、わが国のがんによる死亡者数の上位5位は順に肺がん・大腸がん・胃がん・膵臓がん・肝臓がんとなっている。特に膵臓がんによる死亡者数は男性では第4位、女性では第3位と、近年、増え続けており、10年以内には膵臓がんによる死亡者数は男女ともに全がん種の2位になると考えられている。罹患者数では、全がん種で大腸がんが第1位、胃がんが第3位であり、両がん腫ともに早期発見することで治癒する可能性の高いがんである。内視鏡センターでは、胃がんや大腸がんの早期発見と治療に注力すると同時に、難治がんである膵臓がん、肝臓がん、胆管がん、胆嚢がんの早期発見と新規治療の開発に取り組んでいる。内視鏡センタースタッフの優れた技術と最新の設備で患者様に最高水準の医療をご提供していく。

データ提供 内視鏡センター